

平成30年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	市政協同
議員名	我妻静夫・古澤孝市・岡田健一・早川昇三・南川達彦・鈴木和彦・黒光ひさ
調査実施年月日	平成30年4月12日
調査先 自治体名等	大分県臼杵市
調査項目	女性防災士連絡協議会について
調査目的	地域防災力の向上を図ることを目的とした、女性防災士連絡協議会をいかにして結成し、運営してきたかを調査することを目的とします。
報告内容 実施したこと	<p>臼杵市は、人口 41,234 人で、近年の災害発生をふまえ、南海トラフ地震発生の可能性が、30 年以内には 80%程度、50 年以内では90%と言われているので各地での被害状況を想定して、いかに被害を少なくするのか検討しています。</p> <p>○ハード面では避難路整備として、ループ状の道路を作り、市庁舎も消防署も低地にあり、津波時には被害を受けるので、消防署を高台へ移しています。</p> <p>○ソフト面として、防災士を養成する費用を全額市が負担し、現在、男性 451 名、女性 114 名の防災士が育っています。特に、女性防災士の連絡協議会は全国で初めての設立で、2014 年 8 月に 64 人でスタートしています。会の目的としては、防災士としての知識・技能を向上させ、相互の連携をとり、女性の視点を防災に取り入れることとあります。</p> <p>○小学校区を基本単位として、12 地区にあり、地区の防災士連絡協議会も兼ねています。協議会ごとに規約を策定し、会費徴収の有無があります。</p> <p>○市が支援している活動には、自主防災組織運営訓練・初期消火訓練・応急手当訓練・危険個所パトロール訓練・炊き出し訓練・図上訓練・防災講演・防災士スキルアップ研修などがあり、年度につき 5 回まで、一回当たり 1 万円以内としています。</p> <p>○会長には、市の総務課防災危機管理室長が白羽の矢を立てた方で、保育士・医療ソーシャルワーカーなどの資格を持ち、教育委員をなさっておられ、戦国時代に大友宗麟築城の城下町で、キリスト教が受け入れられた市なので、会長の地域活動も、清き聖母の家・ナザレトの家第 3 者委員をなさっています。</p> <p>○小学校の統合をせず、耐震化を行い、PTA・学校・地域で話し合い、子どもを守るために子どもの防災教育を充実させているそうです。</p>
感想（まとめ） 本市へ生かせること 等	<p>本市にも防災対策課があり、消防署でも防災に力を入れており、各町会にも自主防災組織を結成しておりますが、歴史的に大きな被害を受けておらず、形だけの感を否めません。女性防災士を育成し研修することで、女性目線を取り入れ、もっと身近な防災意識が市民に芽生え、世代を超えた予防体制が確立していくと考えます。</p> <p>市が率先して動くことで各組織を一つにまとめたり、防災士育成の講習費用負担するなどにより市の本気度を示すことが重要だと感じました。最近の気候変動は、これまでの固定概念を払拭して防災対策を考えなければ、大きな被害につながりかねません。災害時には市民が采配を振るう立場となれるよう臼杵市の事例は本市においても一考の価値がありました。</p>

